

くすのき



岡本小学校 学校だより

No. 7

令和2年8月4日

『信頼と共生のワンチーム』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



“はっぴい！夏休み”

～今日の放送朝会の話を紹介します～

明日から、待ちに待った夏休みです。いつもとちがう少し短い夏休みですが、楽しい思い出をたくさん作ってください。

さて、夏休みをおかえるにあたって、校長先生から2つお話をします。

1つめのお話は、みなさんが住んでいる「岡本には、たくさんのいいところがあります」という話です。校長先生は、6年前に岡本小学校に来た時に、不思議に思ったことがありました。それは、岡本小学校の近くには、「駒(こま)」という言葉がつく場所がいくつもあるということです。

「駒千代ランド」「生駒」「駒形新宿」…どうして「駒」がつく地名が、いくつもあるのでしょうか？ずっと不思議でした。

つい先日、6年ぶりにこの不思議が解決したのです。その答えは、『郷土読本』という本に書いてありました。昭和8年に発行されたこの本を、私が初めて先生になったときの校長先生(=古屋 達夫先生)が今年、再編集されました。

生駒に住んでいる人は知っていると思いますが、生駒には「足形社(あしがたしや)」というお社があります。『郷土読本』には、「足形社」について、こんなふうに書かれてありました。

駒形権現とも言うて岡本村炭焼所の鎮守です。今の炭焼所、昔は「墨八寸生(すみやきしよ)」と書きました。昔、源頼朝が富士の裾野で狩りを催した時に、この地を通過する際、里人が頼朝に名馬磨墨(するすみ)を献じました。その馬の毛は純墨で、馬の丈が4尺八寸(約1,5m)もあったので、磨墨の産地として頼朝が「墨八寸生」と命名したと言われています。

今も、こんもりとした森の中に、石の鳥居と磨墨のものだと言われている蹄蹟が深く刻まれた石があります。

さらに調べてみると、昔の岡本村は農作業がさかんで、どこの家でも馬を飼っていたということがわか

りました。岡本村の人々の暮らしと馬は、とても深いつながりがあったのです。馬に関係する地名が今でも残っているのは、そのためです。

今年の夏休みは、コロナの関係でなかなか遠くに行くことができませんが、自分の住んでいる地域のことを調べたり、南足柄市の自然や歴史を探索してみたりするのもいいですね。南足柄市の新しい発見があったら、ぜひ、校長先生にも教えてください。

2つめのお話です。

校長先生は、みなさんに、楽しい“はっぴい”な夏休みをおくってほしいと、思います。“はっぴい”な夏休みにするためには、どうすれば良いか、お話をします。

“はっぴい”の「は」…はんだんする

1年生や2年生には少し難しい言葉かもしれませんが、やって良いこと・悪いことを考えて行動するということです。

「お友達にお金を借りたり、貸したりしてもいいですか？」

「お店のものを、お金を払わないで持ってきてもいいですか？」

「メールやラインで、お友達が傷つくようなメッセージを送ってもいいですか？」

どれも、答えは×です。何がよくて、何がいけないかを、自分で判断して生活してください。どうしたら良いかわからないときには、おうちの人や先生に相談をしてください。

“はっぴい”の「つ」…つづける

何を続けるかということ、自分で考えためあてです。みなさんは、夏休みをどんなふうにご過ごすか、先生やおうちの人と「めあて」をたてました。ぜひ、明日からこのめあてをつづける努力をしてください。この努力は、みなさんの心をたくましくします。

“はっぴい”の「ひ」…びょうきにならない

新型コロナウイルス感染症にかかる人の数が増え続けています。学校生活と同じように、手洗いとソー

シャルディスタンス、三密をさけることを、常に心がけてください。

最後に

“はっぴい”の「い」…いのちをたいせつに

小学生の交通事故で一番多いのは「飛び出し」です。自転車の乗り方や道路の渡り方、子どもだけの水遊びや火遊びなど、危険な行動は絶対にしないでください。たった一つしかない命です。大事にしてください。

“はっぴい”の「は」は、「はんだんする」
“はっぴい”の「つ」は、「つづける」
“はっぴい”の「ひ」は、「びょうきにならない」
“はっぴい”の「い」は、「いのちをたいせつに」

それでは、“はっぴい”な夏休みになりますように。
8月19日、元気に再会しましょう。

横断旗設置

PTA本部のご協力により、小田原・山北線の道路に2か所、横断旗を設置しました。朝晩は特に交通量が多いので、有効活用してください。



個別面談

先週、相互希望制個別面談を行いました。担任等と相談することで、課題解決への道は見えてきたでしょうか。また、保護者の皆様からいただいたご意見等は、今後の学校運営にも生かしていきたいと考えます。

今後も、子どもたちの良き成長のために、双方向のコミュニケーションを深めてまいります。10月上旬には全員対象の個別面談を予定しております。ご協力よろしくお願いたします。



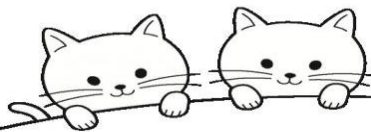
水鉄砲で水遊び



梅雨が明けきらない少々肌寒い日でしたが、見ているこちらも嬉しくなるくらい、本当に楽しそうでした。

水泳の授業ができない代わりに、子どもたちに少しでも“夏の楽しさ”を体験させたいと企画された“水フェス”です。

水鉄砲で金魚すくいのポイをねらうという作戦は、教頭先生のアイデアです。担任もしばし童心にかえり、4・6年生がみんなて遊ぶ楽しさを味わいました。



『いつか、僕の兄さんが学校を休んだ時、青年団の役員の方が二人見えて、「どうかなさいましたか。」と様子を尋ねに来てくれました。あとで聞いたら、役員の方が毎晩二名ずつ参観に行き、休んだ者があると様子を聞きに、直接その家に行くのだそうです。こんな風にして、出席奨励のために青年団と連絡を取っているの、出席率は大変良いということです。』
先に紹介した「郷土読本」の中にこんな文章を見つけました。戦争前の話ですが、学校というのは、昔から地域みんなを支えてきたものだということが分かります。
岡本小学校の交通整理員さんやOKAM OTO安全サポーター隊の方々も、「最近、〇〇さんの顔を見かけないけれど、休んでいるのですか?」
「〇〇さんがまだ通ってないけれど、居残りですか?」
と、いつも気にかけてくださいます。本当にありがたいです。子どもたちは、将来の岡本を担っていく大切な存在だからこそ、多くの目で育てていただいているのだと思います。
夏休み、子どもたちは地域に戻ります。コロナ対策のため、地域の行事も少なくなっていると思いますが、地域の一員として、ご近所や地域の方々にも、進んで挨拶できるといいですね。まずは、大人の手本を見せてあげてください。良い夏休みを…。